

繊維加工を手掛けるサンコロナ小田（大阪市）が開発した炭素繊維複合素材の用途が広がっている。アシックスの「スパイクなし」シューズの靴底に採用され、桐生祥秀選手も公式戦で着用。扱いにくいとされる素材の成形を可能にしたのは、主力のカーテンやウエディングドレス向け素材で培った糸を細くする加工技術だ。

6月にアシックスから発売された「メタスプリント」。靴底はスパイクではなく、蜂の巣のような複雑な立体構造だ。靴底全体で地面を踏みしめるため、スパイクが地面に刺さって抜ける一連の動作がない。このため100分の5秒程度のタイム短縮につながる可能性があるという。

炭素繊維複合素材は炭素繊維で強化したプラスチックのこと。鉄の5分の1程度の重さで金属並

サンコロナ小田 細い糸加工の技

炭素繊維用途広げる

関西

みの強度を持つとされる。ただ繊維の向きと同じ方向からの力に強く、細かい加工が難しい。航空機や自動車部品への活用が多く、靴底のような複雑な形状の素材には向かないとされてきた。新たな。素材は品質を保ったままプレス機などで簡単に成形できる。

サンコロナは炭素繊維の束をほぐして、髪の毛の50倍（径は100μm）の細さの糸を紡いでいる。糸の厚さは10μm、長さ100m。高さは182億円（連結、2020年6月期）の同



「スパイクなし」シューズの靴底にはサンコロナ小田の炭素繊維複合素材が使われている（小田社長）

桐生選手に靴 / アシストスーツ

社のルーツは1955年設立の繊維加工メーカー。石川県に工場を持ち、素材から製品までを手掛けるのが強みで、薄く透明な高級カーテンは国内シェアが2割弱程度、ウエディングドレス向け素材では同7割とトップを誇る。

炭素繊維複合素材は10月中旬に大和ハウス工業が導入した、作業負担を軽減するアシストスーツにも採用された。2022年までに数億円かけて製造コストを半減させ、スポーツ用品や楽器向けなど活用をさらに広げる考えだ。

小田外喜夫社長は「繊維産業が東南アジアへ移る中、国内の技術で新たなビジネスをつくりたい」と話す。炭素繊維を武器に衰退する国内の繊維加工業の新たな姿を示せるか。同社の挑戦は始まったばかりだ。

（佐藤遼太郎）